ISSN 2187－9591

Science Report of Kushiro City Museum

釧路市立博物館紀要

NO.419

2017.3

博物館で35年

東京で学生生活を過ごしている時、ＮＨＫでの午後６時からの30分ドラマに、釧路が出てきたことがありました。しばらく釧路を離れている自分にとって、久しぶりの釧路の様子は実に新鮮だったのを覚えています。ドラマの内容はＳＦだった事以外全く頭に残ってはいませんが、主演の多岐川裕美さんが、見たことのない不思議な建物の前で演技をしていたことは、はっきりと覚えています。

現在はインターネットで何でも検索できる時代です。そこでそのドラマの事を調べてみると、昭和54年８月６日から18日の午後６時～６時29分に放送された、主演多岐川裕美の全13話ＳＦテレビドラマであることが分りました。

現在の博物館の建物は、昭和52年に完成した埋蔵文化財調査センターに付け加える形で増築し、昭和58年に埋文センターと一体化して完成しています。私が学生の時に見たドラマに出てきた建物は、まだ博物館の新館が出来る前の、埋文センターだったのです。

昭和56年釧路市役所を化学で受験し、翌年４月１日に辞令をもらい市職員になりました。化学で採用になったのですが、辞令には博物館で地学担当学芸員として勤務を命ずるとのこと。それ以来35年間、埋文センターに隣接する博物館に勤務することになり、あのドラマで見たこと、とても不思議な縁を感じています。

私が釧路市立郷土博物館に勤務した昭和57年は、次の年に博物館新館がオープンする、博物館人生の中でも最も忙しい時期でもありました。郷土館は市内鶴ケ岱公園内にあり、そこから約１km程離れた春採公園内に新館が建設中でした。

最初に与えられた仕事の一つが、地学収蔵庫の整理と資料の把握です。その作業中、昭和43年釧路町十町瀬と書かれた、未同定のほ乳類上あご化石が保管されているのを見つけました。すぐに発見者を探して現地に案内していただき、産地を特定し、国立科学博物館で鑑定をしていただいた結果、新種のほ乳類であることが分りました。昭和58年11月３日、釧路市立郷土博物館は、釧路市立博物館と改名され、リニューアルオープンしましたが、クシロムカシバクと名づけられた新種のほ乳類上あご化石のレプリカは、新館の地学展示の目玉になりました。

博物館に入って間もない頃から、当時の郷土館のすぐ近くの北海道教育大学地学研究室の岡崎由夫先生にことあるごとにご指導を賜り、少しずつ地学担当の学芸員としてやっていけるようになりました。さらに国立科学博物館の冨田幸光先生、神奈川県立博物館の松島義章先生等多くの方々に支えられながら、地学とは無縁だった私も釧路周辺の貝化石をテーマに調査研究を進めることが出来ました。今思えばあっという間のとても充実した35年の学芸員生活でした。この場をお借りし、改めて皆様に感謝申し上げさせていただきます。

釧路市立博物館 学芸主幹　山代　淳一

３月号目次

博物館で35年 ……山代　淳一　2
東釧路遺跡・北斗遺跡出土の石製装身具
……石川　朗・水ノ江和同・大坪　志子　3
飯島一雄先生の思いで……山根　正気　8
飯島一雄氏に献名された昆虫……土屋　慶丞　9
お届けできる博物館「トランクキット」 ……貞國　利夫　10
チャランケチャシ……加藤ゆき恵・野本　和宏　11
博物館ニュース……12

別海村営軌道の車両（別海町奥行で保存）

〈表紙写真〉　簡易軌道標茶線(標茶町営軌道)の自走客車と下車する乗客(渋谷六男氏蔵・開運町にて)。大正末期から昭和40年代にかけて、道東・道北を中心に開拓と酪農を支えた簡易軌道。鶴居・標茶・浜中・別海の各町村教委、釧路臨港鉄道の会などとの協働により、博物館80周年記念企画展「釧路・根室の簡易軌道」を開催しました（６月まで巡回展示)。　（石川　孝織）

釧路市立博物館館報　№419　2017年3月号　2017年(平成29年) 3 月31日発行
発　行　釧路市立博物館　〒 085－0822　釧路市春湖台1－7
☎ 0154－41－5809(博物館)・43－0739(埋蔵文化財調査センター)/ FAX 0154－42－6000
釧路市立博物館Web　http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/
museum@city.kushiro.lg.jp(博物館)　maibun@city.kushiro.lg.jp(埋蔵文化財調査センター)
発行責任者　白幡 敏弘　　編　集　石川 孝織・貞國 利夫　　印　刷　㈱藤プリント